

なぜ今「探究」なのか？



川元隆一 指導教諭（研究開発部長、文部科学省認定英語教育推進リーダー、熊本県教育委員会認定スーパーティーチャー）

今までの教育は、ある意味正解を出すための授業が多く、テストも〇か×かで評価されていたんじゃないですか。でも今の世の中って、正解が無いことの方が多くですよ。また、どんなに知識が豊富でも倫理観がないと大きな間違いを起すこともある。知識は今でも重要な学力の要素なのですが、それだけではなく、思考力や判断力、表現力なども求められています。世の中に求められる学力が大きく変わってきているんです。そんな中で、大学と高校が連携

して教育改革に着手したのは数年前です。その中で本校のみらい創造科グローバル探究コースは誕生しました。

普通科のカリキュラムに加えて、7限目に「国語探究」「数学探究」「英語探究」を加え、「総合的な探究の時間」と合わせると、週に4時間の探究の時間が設定されました。生徒たちはその中で、様々な正解のない課題に取り組むのです。生徒たちは図書館やパソコン室を活用したり、地域と連携したり、大学の先生方、海外の大学と連携しながら、様々な課題を設定し、リサーチ、デイスカッション、プレゼンテーションのような活動を行います。そして、このプロセスの中で、論理的思考力や判断力、表現力、そして主体的に学びに向かう力、他者と協働する力がはぐくまれていくのです。

正解のない探究活動は一人ではできません。仲間との協働、様々な人、団体との連携、協力は不可欠です。生徒たちには、性別の壁、世代の壁、国境の壁、文化の壁を越えて、様々な価値観の人と協働できる人材に育ってほしいと願っています。

特集

未来創造科

グローバル探究コースの特徴

グローバル探究コースは7限目に、国語探究、数学探究、英語探究の授業を設定しています。国語探究では「善と悪」「ルールとは」などのテーマで生徒同士の対話を引き出す授業。数学探究では数学の歴史をメインのテーマに生徒の「何故？」を引き出します。英語探究では、プレゼンテーション、デイスカッション、デイベート活動を通して、英語での発進力を高めます。また英語探究は本校の英語のスタッフ全員が授業に入るので、表現活動できる細やかな指導を受けられます。



#1 教科書を超える
「国語探究・数学探究・英語探究」



ポスタープレゼンテーション（1期生）



教師による表現活動のサポート



対話を引き出す国語探究（2期生）

国境や文化、言語の壁を超える

#2 「グローバルキャンプ」「海外交流」

「海外研修」

1年次には、海外からの留学生とこれからの世界の在り方を考える「グローバルキャンプ」。2年次には、アジアの様々な現状を知る「海外研修」を計画しています。新型コロナウイルス拡散防止の観点から本年度はシンガポール国立大学の学生の皆さんとSDGsをテーマに、zoomによるオンライン交流を行いました。



留学生との語学研修（1期生）



シンガポール国立大学とのオンライン交流（2期生）

#3

文系・理系の壁を超える

「文理融合」クラス

これからの社会は文系だけ理系だけでは解決できない問題が多くあります。グローバル探究コースは、理系の生徒も文系の生徒も一緒に学びます。理系・文系選択科目の授業は別れますが、多くの授業、そして探究科目は一緒に学ぶこととなります。とくに探究科目では理系、文系、両方の視点からの研究が同じクラスで行われることとなります。

#4

教科の壁を超える

「クロスカリキュラム」

今の世の中、何か課題を解決したり、目標を達成しようとするときには、様々な分野が協働する必要があります。本校では教師が、課題や目標に応じて、他教科と協力しながら授業を進める「クロスカリキュラム」を推奨しています。これにより教師同士の様々なチャレンジが生まれています。



英語で物理実験（1期生）



リサーチ活動（2期生）

#5

自らの壁を超える

「課題研究」YDP

本校の「総合的な探究の時間」では、SDP（ヤングドクタープラン）という課題研究があります。生徒一人一人がドクター（博士）になって、自分の専門分野を研究するという取組ですが、これは、学校内だけではなくどまりません。地域や大学の協力を得ることができません。例えば、山鹿市、株式会社あつまるくん山鹿シルク、熊本大学薬学部、工学部、熊本県産業技術センターの協力を得ながら、かいこを使った香水の研究をしている生徒がいます。また、「菊池川の恵み」体験協議会を通して、菊池農業高校の農業祭のプレゼンテーションに参加する生徒もいました。このように、様々な外部機関との協力、連携を得ながら課題研究は進められています。



「菊池川の恵み」体験協議会、菊池農業高校との連携（1期生）